

復興の歩み

防災集団移転地の整備が進む仙台市若林区荒浜地区。写真手前は真山堀と海岸防災林。2020年11月18日



2011年

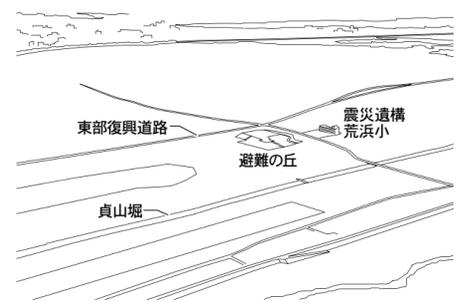


津波で住宅街は跡形もなくなり、豊かな海岸林もなぎ倒された。中央右側の建物は荒浜小。2011年3月18日

2003年



被災前の荒浜地区。松林と田んぼに囲まれた住宅街だった。2003年9月(一般社団法人東北地域づくり協会提供)



宮城 仙台市 荒浜小遺構 記憶を後世へ

仙台市は宮城野、若林両区の沿岸部が東日本大震災の津波で甚大な被害を受けた。青葉区など内陸部でも昭和30～40年代に造成された丘陵宅地で地滑りなど地震被害が多発。ピーク時には1万2009世帯が仮設住宅に身を寄せた。

沿岸部の若林区荒浜地区は約800世帯、2200人が暮らし、市内唯一の深沼海水浴場は夏の行楽スポットとして市民に親しまれた。津波で松林や住宅がなぎ倒されて住民ら約190人が犠牲になった。

荒浜を含む沿岸部一帯は災害危険区域に指定され、1540世帯が防災集団移転促進事業の対象になった。世帯が分かれるなどして最終的に1763戸が、宮城野区田子西や若林区荒井西など13カ所に整備された集団移転団地や、災害公営住宅に移り住んだ。

津波に見舞われた荒浜小は2016年に閉校し、市は17年4月30日に震災遺構として一般公開を始めた。来館者は今年1月末時点で延べ27万1383人。19年8月からは荒浜地区の壊滅した住宅地の一部を震災遺構「荒浜地区住宅基礎」として一般公開している。

南蒲生、新浜、荒浜、井土、藤塚の5地区の移転跡地では利活用事業が始まった。温泉や農園、レストランの複合施設の建設が進むなど全38区画(43%)のうち28区画(24%)で利用方針が決まった。

19年11月30日に沿岸部を南北に貫く県道塩釜巨理線を6.5mかさ上げした東部復興道路が全線開通し、市のハード面の復興事業はほぼ完了した。深沼海水浴場は再開のめどが立っていない。



海岸公園冒険広場(写真奥)とデイキャンプ場。6.5m盛り土し、2018年7月に再オープンした。2020年9月20日、若林区井土地区

● まちの動き

2011年	3月11日	地震発生。仙台市宮城野区で震度6強。宮城野区蒲生で津波浸水深14.1mを記録し、沿岸部4523世帯が浸水した。内陸部の丘陵地など宅地5728カ所が地滑りなどで危険、要注意の判定を受けた。公共交通機関が止まり、帰宅困難者がJR仙台駅や地下鉄駅近くの避難所にあふれた
	3月28日	太白区あすと長町でプレハブ仮設住宅が着工。市内18カ所に1505戸を整備
	7月31日	全避難所を閉鎖。3月12日のピーク時は帰宅困難者を含め10万5947人が身を寄せた
	10月1日	仮設焼却炉によるがれき処理が始まる
	11月30日	市震災復興計画(11～15年度)策定
	12月16日	市が沿岸部一帯を災害危険区域に指定し、防災集団移転の対象にする
2012年	2月20日	市内初の災害公営住宅「北六番丁市営住宅」着工
	9月10日	内陸の太白区緑ヶ丘4丁目を災害危険区域に指定
	11月11日	防災集団移転先の一つ「荒井公共区画整理地区」(若林区)の宅地申し込みが始まる
	12月21日	災害公営住宅の入居申し込みが始まる
2013年	12月27日	市内のがれき137万トンの処理が完了
2014年	3月16日	かさ上げ道路「東部復興道路」着工
2015年	3月14日	第3回国連防災世界会議が開幕
	12月6日	地下鉄東西線開業
2016年	2月13日	せんだい3・11メモリアル交流館オープン
	6月30日	災害公営住宅全3206戸(49カ所)整備完了
	10月28日	プレハブ仮設住宅解消
2017年	3月11日	荒浜地区にモニュメント「荒浜記憶の鐘」が完成
	4月30日	震災遺構「荒浜小」の一般公開が始まる
2019年	8月2日	震災遺構「荒浜地区住宅基礎」の一般公開始まる
	11月30日	東部復興道路が全線開通
2021年	3月18日	荒浜地区に体験型観光農園「JRフルーツパーク仙台あらはま」がオープン(予定)

● まちのデータ

人口	2021年1月1日	11年3月1日	増減率
	109万2478人	104万6737人	+4.4%
復興交付金	2005億8460万円		
犠牲者	死亡	行方不明	関連死
	658人	27人	265人
住宅被害	全壊	半壊	一部破損
	3万34棟	10万9609棟	11万6046棟

※復興交付金は復興庁まとめて、仙台市内で実施された宮城県事業への交付分を含む。人口、犠牲者、住宅被害は県まとめ

● まちの宝



灯籠流し

荒浜地区で震災前から続く先祖供養の伝統行事。8月のお盆直後の土曜日、真山堀に手作りの灯籠を流す。11～17年は安全性を考慮して昼間に開催し、18年に夜の灯籠流しが復活した。



震災遺構「荒浜小」

1873年開校。高さ4.6mの津波が押し寄せ校舎2階まで達したが、児童や地域住民ら320人が屋上に逃げるなどして助かった。震災の教訓や荒浜地区の歴史を伝える。見学無料。